

1 単元名 根拠を示しながら、意見文を書こう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「根拠となる部分を引用しながら、意見文を書く」ことを位置付けた。相手に自分の意見を分かりやすく伝えるためには、その根拠を明確にしなければならない。そして、その根拠は、ひとりよがりの空想であっては説得力に欠ける。今回は、「なぜ、僕が最後にチョウを一つ一つ粉々に押し潰してしまったのか」という疑問に対しての自分の読みを、その根拠を文章中の表現や言葉に求めて述べるものとした。これは、「C読むこと」の言語活動例「ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること」に基づくものであり、指導事項である「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」を実現できるようにした。また、その意見について、交流の場を設けることで、指導事項「オ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くすること。」をも実現するにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 生徒観：

生徒は前単元「根拠を明確にして書こう」において、二つの挿絵を比べて、どちらが適しているかという自分の主張について、それぞれの長所もしくは短所を根拠として、自分の意見を述べるという言語活動を行った。この学習を通して、生徒は、自分の主張を述べる際、それを裏付ける根拠を明確にして意見文を書く力が身に付いた。しかし、言語活動の特性上、図表から読み取った自分の観点を根拠として述べる力にとどまっており、日常の生徒の言語能力を見る限り、文章を引用して述べるという部分では十分でない。

また、本校では、学び合いによる協同学習を掲げているが、生徒どうしが積極的に関わりあって課題解決を目指そうとしない現状がある。さらに、低学力も大きな課題となっており、実力テストにおいて得点が*割に満たない生徒が、学級の*割強(*%)を占め、*割に満たない生徒は約*割(*%)を占める。学習意欲も低く、家庭での学習習慣も定着していない状況にある。本単元において、どのようにすれば生徒が主体的な学習を行うことができるのかということ考えた場合、主題に迫る疑問(課題)について、調べ学習という学習手段を取り入れることで、文章における場面の展開や登場人物の心情描写・場面描写を手がかりに読み解きながら、確かな読みにつなげることができるのではないかと考えた。また、登場人物の行動理由についての意見文を書くという言語活動を設定し、そのための調べ学習を展開することで、目的意識が明確になり、何のために学ぶのかということを生徒自ら意識して取り組むことができるのではないかと考えた。

(2) 教材観

教材である『少年の日の思い出』は、長らく教科書教材として扱われているものである。チョウを収集することに情熱を抱いた少年の、償うことができなかった過去の過ちを大人になってから友人に告白することから始まる。作品全体に重圧な雰囲気が漂い、生徒の読書経験にはない作風である。その中で、過ちを犯してしまう「僕」の心理描写、許しを得ようとあがく姿、そして、情熱を傾けたチョウの収集を残らず全部、それも一つ一つ押し潰してしまう結果のいたたまれなさには、ショックを受けつつも、どこかしら共感を覚えるものであると考える。しかしながら、物にあふれ豊かな時代を生きる生徒たちには、この「僕」がとった結末の行動については、素直には受け入れ難く見解が分かれるものと考ええる。この見解の相違が自ずと生じるという点で、この教材は、自分の読みを相手に説明するために、自分の意見の根拠を文章に求め、それを指し示しながら意見文を書くという言語能力を育成するに適したものであると考える。また、その読みの交流を通して、自他の読みの違いに気付き、自らの読書生活を豊かにしようとすることにも繋げることができる教材である。

(3) 指導観

本単元では、自分の読みの予想の元、教科書の根拠を的確に挙げながら意見文を書くという言語能力を育成する。この言語能力を育成するために、多くの生徒の初発の感想にあった「最後に『僕がチョウを一つ一つ指で押し潰してしまった』わけが理解できない。」という疑問を学習課題として設定し、その行動の理由が分かる部分はどこか、という視点で調べ学習を行うこととする。それというのも、総合的な学習の時間の生徒の取り組みの様子を見てみると、自分が設定した課題について、調べ学習を行うことに非常に意欲的であり、熱心である。そのため、国語の学習に対して、その学習意義を見出せず、どう取り組んでいいか分からないという生徒が多い現状において、「調べ学習」という学習手段を取り入れることは、生徒の国語の学習に対する意識を変化させることの一助になるであろうと考えた。また、調べ学習を進めていく中で、自然と場面の展開や登場人物などの描写に注意して文章を読んだり、文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的に捉えたりすることができ、個々の読みを深めていくには有効ではないかと考える。第二次では、言語活動として、登場人物の行動理由についての自分が考えるところの「意見文を書く」ことを設定することで、その根拠を探しながら、自分の読みの形成をしていくとともに、「必要に応じて引用して紹介する」ことが実現可能であると考えた。

4 単元の目標

- 課題に沿って場面を選び、根拠や内容を進んで調べたり、述べたりしようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の展開や登場人物などの描写に注意して文章を読み、課題を解決することができる。
(読むこと)
- 他者との読みの違いを知り、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができる。
(読むこと)
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文章中の語彙について関心を持つことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に沿って場面を選び、課題の根拠や内容を進んで述べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して、文章を分析的に読んでいる。 ・ 主人公のものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えを広げ、意見を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。 ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文章中の語彙について関心を持っている。

6 単元の指導計画（7時間扱い）

次時	主な学習活動	主な評価
一	1 ○ 初発の感想から疑問点を共有し、学習課題を設定する。 2 ○ 各場面ごとに読み深め、学習課題について調べ学習を行う。 3 ○ 自分の意見の根拠となる部分を見つけ、 4 ○ まとめる。 ⑤	関：学習活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。 関：課題解決のために、教科書を活用して調べようとしている。 読：場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、根拠を明確にして、読みを深めている。 言：文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。 言：事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。
二	1 ○ 「なぜ、ぼくは最後にチョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまったのか」について意見文を書き、交流する。	読：文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的に捉え、自分の考えをその根拠となる部分を引用しながら、意見文を書いている。 読：友達との読みの違いを知り、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。
三	1 ○ 学習を振り返り、学習のまとめを書く。	関：意見文の交流を通して考えた学習課題に対する自分の考えや、作品に対する感想をまとめようとしている。 読：主人公のものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えを広げ、意見を述べている。

7 本時の学習

(1) 目標

- 登場人物などの描写に注意して読み、その行動理由について考えたことを、根拠を明確にして、読みを深めることができる。

(2) 資料・準備

- ・ 挿絵（3場面分）

(3) 展開

学習活動・内容	形態	・指導上の留意点, ◎評価
<p>1 話の全体の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第1場面 「私」と「客」 第2場面 チョウとの出会い 第3場面 チョウの誘惑と盗み 第4場面 盗みの代償</p> </div>	<p>コの字</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵をアニメーション的に場面の順とはあえて違えて提示し、話の展開通りに並べ替えさせることで、話の展開を確認できるようにする。 学びに向き合えない生徒を意図的に指名し学びに引き込むようにする。 第4場面だけ挿絵がないことをきっかけとして、そこで何が起きたのを確認し、本時の課題へつなげる。
<p>2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ、僕は最後にチョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまったのか。</p> </div>	<p>コの字</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の表情を見取り、つぶやきやペアでの話し合いが起こったら、グループでの話し合いに移行する。
<p>3 グループでお互いの考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下劣なことをしてしまった自分が許せないのではないか。 エーメールに言われたことに腹を立てたからじゃないか。 エーメールの態度が許せなかったんじゃないか もしかしたら、チョウを盗んでしまったことで、自分にチョウを集めることはできないと思ったんじゃないか。 	<p>グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ここでの交流は、一つの意見にまとめることではなく、互いの考えを聞き合い、自分の考えを深めるためのものとする。
<p>4 自分の立場・意見を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> チョウへの償いのつもり エーメールに対する償いのため エーメールに対する怒りが止まらない 自分の行動を記憶から消してしまいたい 自分にはチョウを収集する資格がない 	<p>コの字</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きくこの五つの立場・意見に分類するがこの内容に統一するものではないことを確認する。 互いの意見を交流し、共有を図る中で、「闇の中で」「一つ一つ」「指で」「押し潰す」の言葉にも着目するよう、発言を繋いでいくようにする。 生徒の様子から、随時グループやペアでの話し合いを取り入れるようにする。 ◎A：登場人物などの描写に注意して読み、その行動理由について、根拠となる部分に見当をつけながら考えている。 B：登場人物などの描写に注意して読み、その行動理由について考えている。 (話し合いの様子, ノート)
<p>5 自分の考えの根拠となるところがないか調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考えの根拠（裏付けとなる部分）は、文章中のどこにあるか。</p> </div>	<p>コの字</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見文を書くことを再確認し、全単元での学習を想起させ、意見を述べるにはその根拠が必要であることをおさえるようにする 文章中から、自分の意見・考えを裏付ける根拠となる部分がないか調べていくこととする。 ◎A：自分の考えを裏付ける根拠となる部分を引用し、整理しまとめている。 B：自分の考えを裏付ける根拠となる部分を文章中から見つけている。 (ノート) 同じ立場や意見の人とグループを組み、その根拠の妥当性について考えるよう促し、次時への学習意欲を喚起する。